

令和7年度 信学会白馬幼稚園 「園の自己評価」

よりよい園運営を行うため、園の自己評価の実施が法律で規定されました。これは国からの評価項目の指標に基づいて実施しています。

1 園の教育目標

“みんなのびのび えがおぼかぼか はくばっこ”

～ 白馬の恵まれた自然の中で 心豊かな子どもを育もう ～

2 目指す子ども像（本年度の重点目標）

- ・豊かな体験活動を通して、科学的なものの見方や考え方ができる子ども
- ・失敗をおそれず、なにごとにも楽しく前向きに挑戦する子ども
- ・歌って自分を励まし、歌って友達の輪を広げていく子ども

3 自己評価

A…十分達成されている

B…達成されている

C…取り組んでいるが、成果が十分でない

D…取り組みが不十分である

項目	自己評価内容	評価
教育課程・指導	・園は目指している教育目標、本年度の重点目標を周知している。	A
	・教育課程実施において、教職員は共通理解をしている。	A
保健管理	・日常の健康観察や、疾病予防のための取り組みや健康診断などを行っている。	A
安全管理	・事故や怪我等発生時の危機管理マニュアルが整備されている。	A
組織運営	・園長は教育目標の達成に向けリーダーシップを発揮し、職員をリードしている。	A
	・園運営が適切に機能するために、運営・責任体制の整備を行っている。	A
研修（資質向上への取組）	・法人実施の研修会への参加と、園内研修会の実施をしている。	A
	・日々の保育の振り返りと課題を明確にしている。	A
教育目標・園評価	・幼児の実態、保護者の意見要望などを踏まえた園目標を設定している。	A
	・保護者アンケートの実施と学校関係者委員会（モニター会）を設置している。	A
	・本年度の重点目標達成のための取り組みをしている。	A
情報提供	・園公開を実施し、園の取り組みを広く情報提供している。	A
	・園の情報を広く公開するために、ホームページ等を活用している。	A
保護者・地域住民との連携	・PTA や学校関係者委員会（モニター会）等で定期的に懇談会を実施している。	A
子育て支援・預かり保育	・地域における保護者の実情や、子育て支援ニーズを把握している。	A
	・保護者の実情や要望を取り入れ、預かり保育・希望保育事業を実施している。	A
教育整備環境	・子どもの成長に則した教育環境になるよう工夫を重ねている。	A

4 園運営の反省

- ・目指す子ども像を教職員が理解し、意識して教育活動を行ったり、行事等の計画を立案したりすることができてきている。グランドデザインを重視する取り組みが園運営に反映されてきたことは成果と言える。
- ・モニター会での懇談内容や意見が運営に反映するように、教職員はもとより保護者へもレーザーキッズを活用して周知してきた。地域、地元根差した信学会白馬幼稚園となるよう保護者と共に園運営を考えていく姿勢を大切にしていきたい。
- ・日常の活動や行事に対して、教職員の共通理解や情報共有が深まることにより、自分の責務を果たしたり、よりよい活動を求めての向上が見られたりする。コーナー保育の実践も進んできたが、更なる子どもの主体的な姿を求めた環境づくりや新たな取組を模索する姿勢が不可欠である。教職員個々の経験やアイデアを十分に生かして、学びの場の充実や園運営への積極的参画を行う自覚が求められる。

5 学校関係者評価（意見）

- ・モニター会では保護者の意見を聞き取りながら幼稚園運営を行っている状況がわかり、保護者アンケートも丁寧を実施できていることがわかる。園の自己評価についても先生方が俯瞰的に評価していることや信学会全園で改善のための同じ項目で自己評価として取り組んでいることも理解できた。
- ・今後も保護者の意見を真摯に受け止めながら、信学会白馬幼稚園らしい教育を求め、適切な運営ができるように取り組んでいくことを求める。